NRI 未来創発
Dream up the future.

NRI 学生小論文コンテスト 2012

日本から未来を提案しよう!

野村総合研究所
Nomura Research Institute

野村総合研究所（NRI）は、企業理念として
「未来創発 ── Dream up the future.」を掲げています。
「創発」とは、多様な才能やアイデアが互いに作用しあい、
新しい価値を生み出し、全体として高まっていくことです。
この「NRI学生小論文コンテスト」は、
次代を担う若い皆さんとともに
未来の社会を創発していこうと、
2006年から行っています。
2012年のコンテストでは、
「自分たちの子ども世代に創り伝えたい社会」をテーマに
応募者が自分自身のこととして社会をとらえ導き出した、
未来への提案を募りました。
この冊子には、入賞論文をはじめ、
審査の過程や応募者の感想、
コンテストを応援したNRI社員の活動などをまとめています。

NRI学生小論文コンテスト2012

日本から未来を提案しよう！

私たちが考える、
子ども世代に創り伝えたい社会

日本人の美徳を残したい。

偏見や差別がない社会。

あらゆる世代が
豊かさの恩恵を
受けられる社会。

教育立国日本。

多様な価値観があり、
多様な働き方が
できる社会。

安心安全で
あることが第一。

子どもの可能性を
引き出せる社会。

憎しみのない社会。

新しい福祉国家。

日本の美しい里山の
保存と再生を。

日本人としての
アイデンティティを
伝えていく。

何度でも
挑戦できる社会。

子どもたちが
夢や希望を持てる
社会にしたい。

国境を越えても、
わかりあえる社会。

いじめのない社会。

1年間の休暇がとれて、
夢を持ち続けられる
社会。

日本の誇りと文化は
伝えていく。

目次

2 私たちが考える、子ども世代に創り伝えたい社会

6 NRI学生小論文コンテスト2012「日本から未来を提案しよう!」

7 募集要項

8 審査結果

12 コンテストへの想い

13 **入賞論文　大学生の部**

14 大賞 **政経社会系教育重点校「スーパーソーシャルハイスクール」　山本 泰弘**

20 優秀賞 **将来の日本の為に**――我々の世代が為すべき医療改革　**木下 翔太郎**

26 優秀賞 **新しいエコの形、C to Cシェアリングの実現**――「使わない」から「使いたい時だけ」への転換　**藤平 達之**

32 特別審査委員賞 **農業・地域・女性が拓く日本の未来**――つながりから生まれる新しい直売所のかたち　**林 ひろみ**

39 **入賞論文　留学生の部**

40 大賞 **お互いのコミュニケーションのため**――世界の未来である君たちへ　**林 猷琼**

46 優秀賞 **「留学生活用社会」の創造**――外国人留学生就職における問題の解決と留学生自身にできること　**張 辰飛・馬 一丹**

53 **入賞論文　高校生の部**

54 大賞 **エネルギー地産地消型エコシティの創造を目指して　木田 夕菜**

58 優秀賞 **世代間交流による学びコミュニティーの構築　岩間 優**

62 優秀賞 **次世代に残す「里山」**――コウノトリの舞う環境を守る農業の実践をめざして　**谷口 淳人**

66 優秀賞 **今どきの子供が未来を創る**――興味が繋ぐバトン　**舛田 桃香**

70 特別審査委員賞 **自然と仲良く暮らすために**――知ること、考えること、伝えること　**伊藤 茜**

73 **募集告知から審査、そして表彰まで**

74 募集告知

76 審査

78 2次審査会

82 論文発表会

84 表彰式

86 コンテストへの応募動機

90 NRI社員による審査の感想

92 NRI社員のコンテスト告知活動、教員から見た「NRI学生小論文コンテスト」

94 おわりに

95 メディアでの掲載

NRI学生小論文コンテスト2012
「日本から未来を提案しよう!」

野村総合研究所（NRI）は、「未来創発—Dream up the future.」という企業理念のもと、未来社会のパラダイムを洞察し、その実現を担うことを使命としています。そうしたNRIの社会的責任の一環として、これからの社会を担う若い世代の皆さんに、日本や世界の将来に目を向け、自分たちが何をなすべきかを真剣に考え、その熱い想いを発表する場を持っていただこうと、2006年から「NRI学生小論文コンテスト」を開催しています。

今回のコンテストでは学生の皆さんに、自分自身のこととして社会を捉え、それぞれの知識や実体験に基づいたオリジナルな視点から、あるべき社会を考えてほしいとの想いから、「自分たちの子ども世代に創り伝えたい社会」をテーマとしました。このテーマに合わせ、自分なりに実現したい社会を提案する論文が全国から多数寄せられました。

本冊子では、過去最多となった応募論文1,363本の中から、1次審査、2次審査を経て選出された入賞論文11点を掲載するとともに、選出までの過程をまとめています。

募集要項

新しい社会のために
力強い提案を!

大学生の部 テーマ

自分たちの子ども世代に創り伝えたい社会

あるべき社会の姿と私たちの挑戦

応募資格：日本の大学院、大学、短大、高等専門学校（4～5年）に在籍している学生で、27歳以下の、個人またはペア。ペアの相手は留学生の部、高校生の部の応募資格者でも可。
字数：4,500～5,000字　＊別途400字程度の要約を添付。
賞：［大賞1名］賞金50万円、［優秀賞若干名］賞金25万円、［佳作若干名］賞金5万円

留学生の部 テーマ

自分たちの子ども世代に創り伝えたい社会

あるべき社会の姿と私たちの挑戦

応募資格：日本の大学院、大学、短大、高等専門学校（4～5年）、日本語学校に在籍している30歳以下の、留学生の個人またはペア。ペアの相手は留学生の部の応募資格者に限る。
字数：4,500～5,000字　＊別途400字程度の要約を添付。
賞：［大賞1名］賞金50万円、［優秀賞若干名］賞金25万円、［佳作若干名］賞金5万円

高校生の部 テーマ

自分たちの子ども世代に創り伝えたい社会

私たちがすべきこと、できること、やりたいこと

応募資格：日本の高校、高等専門学校（1～3年）に在籍している、学生の個人またはペア。ペアの相手は高校生の部の応募資格者に限る。
字数：2,500～3,000字　＊別途200字程度の要約を添付。
賞：［大賞1名］賞金30万円、［優秀賞若干名］賞金15万円、［佳作若干名］賞金3万円

※論文は日本語で作成してください。
※論文は自作で未発表のものに限ります。
※テーマをそのまま論文タイトルとせず、独自のタイトルを必ずつけてください。
※3名以上のグループでの応募は審査対象外となります。

審査結果

入賞者の皆さんおめでとうございます！

入賞

大学生の部

大賞
政経社会系教育重点校「スーパーソーシャルハイスクール」
山本 泰弘　京都大学 大学院 地球環境学舎 修士課程２年

優秀賞
将来の日本の為に
――我々の世代が為すべき医療改革
木下 翔太郎　千葉大学 医学部５年

優秀賞
新しいエコの形、C to Cシェアリングの実現
――「使わない」から「使いたい時だけ」への転換
藤平 達之　一橋大学 社会学部４年

特別審査委員賞
農業・地域・女性が拓く日本の未来
――つながりから生まれる新しい直売所のかたち
林 ひろみ　群馬県立女子大学 国際コミュニケーション学部３年

留学生の部

大賞
お互いのコミュニケーションのため
――世界の未来である君たちへ
林 猷琼　武蔵野大学 グローバルコミュニケーション学部１年

優秀賞
「留学生活用社会」の創造
――外国人留学生就職における問題の解決と留学生自身にできること
張 辰飛　東京大学 大学院 経済学研究科 修士課程１年
馬 一丹　東京大学 大学院 工学系研究科 修士課程２年

高校生の部

大賞
エネルギー地産地消型エコシティの創造を目指して
木田 夕菜　鹿児島市立鹿児島玉龍高等学校１年

優秀賞
世代間交流による学びコミュニティーの構築
岩間 優　桜蔭高等学校３年

優秀賞
次世代に残す「里山」
――コウノトリの舞う環境を守る農業の実践をめざして
谷口 淳人　神奈川県立中央農業高等学校２年

優秀賞
今どきの子供が未来を創る
――興味が繋ぐバトン
舛田 桃香　頌栄女子学院高等学校２年

特別審査委員賞
自然と仲良く暮らすために
――知ること、考えること、伝えること
伊藤 茜　三重県立四日市高等学校２年

佳作

（氏名の五十音順）

大学生の部

多様な価値観に対応する新たな働き方の提案――日本型雇用システムからの転換
足立 達彦　明治大学 政治経済学部３年
長谷川 哲士　明治大学 政治経済学部３年

『科学技術共生成型社会』の提案――東日本大震災を経て、科学技術といかに付き合うか
飯田 貴也　早稲田大学 先進理工学部４年

人類社会の発展に貢献し続ける国「日本」――戦略的思考を持つ国づくり人づくり
池田 貴春　慶應義塾大学 総合政策学部４年

日本の里山保全モデルを世界に発信――広がれ！里山再生の輪
池松 俊哉　筑波大学 大学院 生命環境科学研究科 修士課程２年

世界に誇れる日本の教育を目指して――個性を伸ばす多様な教育システムの構築
乾 瑞紗　神戸薬科大学 薬学部５年

縦のつながりが強い社会をつくる
大泉 友奈　山形大学 人文学部１年

GNPからGWPへ
――東アジアで超国家的枠組みの形成を目指そう！アジアの平和で安定的な共存を見据えて
川﨑 裕紀　名古屋大学 経済学部１年

教育が変える人間性と日本社会
楠木 秀憲　京都大学 経済学部４年

持続性社会へ導く地図――三つの縁と三つの力
戀川 光央　東京理科大学 大学院 イノベーション研究科 修士課程２年

食の安全とトレーサビリティシステム
竹川 友祐　三重大学 人文学部３年

情報社会を生き抜く子どもたちへ
田中 志歩　東京工芸大学 芸術学部４年

自然との共生社会――自然を守り、生活を守る
吉田 圭介　信州大学 繊維学部４年
川口 拓郎　信州大学 繊維学部４年

留学生の部

みんなが夢のために努力できる社会を作るための貧困退治
――現地民を中心とした適正技術的接近法で貧困退治を図る
李 ロウン　千葉大学 工学部 4年

偏見と差別がない国へ――三位一体の小学校教育から真のグローバル社会を構築する
金 升一　慶應義塾大学 法学部 3年

私たちの子ども世代のためにあるべき社会の姿を考える
――「絆」が溢れる社会の実現を目指して
金 桂英　早稲田大学 大学院 日本語教育研究科 博士課程 2年

安心、安全なコミュニティと、持続的に発展する「スマート社会」づくりに向けて
グェン ティ トー ロアン　滋賀大学 経済学部 1年

「包み」文化を受け継ぎ、世界に発信しよう――中国人から見た日本の「包み」文化
周 菲菲　北海道大学 大学院 文学研究科 博士課程 2年

「憎みがない社会」を次世代に創り伝える――日中関係を改善するために提案する
段 皓宇　武蔵野大学 大学院 言語文化研究科 修士課程 2年
祁 文月　武蔵野大学 大学院 言語文化研究科 修士課程 2年

水資源――豊富のままに、最も残すべきもの
呂 攀峰　聖学院大学 政治経済学部 4年

高校生の部

明日に向けて一歩ずつ
新井 冬威　本庄東高等学校 2年

地域の魅力、再発信！――商店街から始まる地域活性化
飯尾 祐介　東海高等学校 1年

この夏、台湾旅行で考えたこと
飯田 純子　帝塚山高等学校 1年

与えることで与えられる――教会で学んだこと
内海 理紗子　清教学園高等学校 2年

わがままを言うこと
岡田 馨絵　東京都立小石川中等教育学校 4年（高校1年相当）

2つの“eco”から見た現代日本
河合 洋弥　宮城県仙台第三高等学校 2年

平和な世界を創り伝えるために――『世界市民連邦』の実現を目指す。
金 尚燁　神戸朝鮮高級学校 3年

You to Me
草間 さゆり　横浜雙葉高等学校 2年

芋きん屋のおばあちゃん
小林 光亮　東京都立小石川中等教育学校 4年（高校1年相当）

教育立国日本の教育理念を次世代にもつなげていく
小松 亜美　立命館慶祥高等学校 3年

いじめのない世の中へ
十文字 千花　埼玉県立川越女子高等学校 1年

アンテナショップの海外進出案
染谷 円花　中央大学高等学校 3年

日本に、自分に誇りを――隣の芝は本当に青い？
高橋 若葉　神戸大学附属中等教育学校 4年（高校1年相当）

高齢者や小さな子ども達、誰もが楽しく暮らせる社会
寺井 沙也加　愛知県立愛知商業高等学校 3年

茶道と心
長野 志保　中央大学高等学校 3年

こ食・朝食
波多江 奈々　福岡県立糸島高等学校 2年

希望ある国家・社会
日野 徹也　帝塚山高等学校 1年

イマを残す
藤本 尚希　山形県立山形東高等学校 1年

ボルネオの熱帯雨林から地球の未来を考える
星野 航輝　西宮市立西宮高等学校 1年

「自分」として生きるために
真下 葵　本庄東高等学校 2年

2030年までに国民の理解は移植される
松木 友香　星美学園高等学校 2年

「しきり」と人類
道盛 裕太　神戸大学附属中等教育学校 4年（高校1年相当）

最高の教育
湯生 晴子　神戸大学附属中等教育学校 4年（高校1年相当）

論文の応募概況

「NRI学生小論文コンテスト2012」には、大学等96校、高校98校から合わせて過去最多となる1,363本の応募がありました。部門別の内訳は、大学生の部に231本、留学生の部に49本、高校生の部に1,083本です。

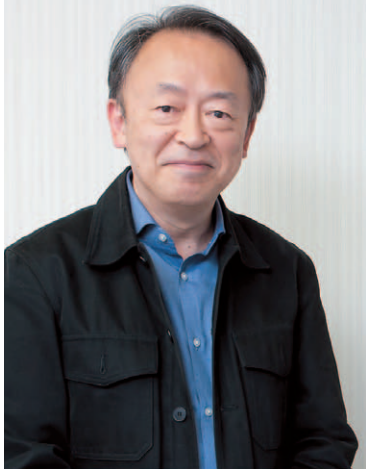
共同で文章をまとめるペア応募は27組ありました。部門別の内訳は、大学生の部に23組、留学生の部に2組、高校生の部に2組です。なかには異なる大学に籍を置く大学生同士による論文や、大学生と高校生とのペアによる論文もありました。

コンテストへの想い

実現に向けた努力が明るい日本を築く

NRI取締役会長
藤沼 彰久

最近の若い人は日本国内に閉じこもる傾向があると感じていましたが、皆さんの元気な応募論文を読んで、杞憂であったと知りました。NRIは「未来創発」という理念のもと、本業を通じて社会に貢献していこうと考えています。会社として行う事業が、巡り巡って明るい未来を切り開くことにつながっていってほしいと思っています。皆さんが論文に込めた想いも、これから実現を目指して努力することで、社会を良い方向に向け、いつか明るい日本を築いてくれる。そんな期待を持ちました。



斬新な発想を知るまたとない機会に

「NRI学生小論文コンテスト」
特別審査委員
ジャーナリスト・東京工業大学教授
池上 彰 さん

NRI学生小論文コンテストには根底に「未来のために何をするか」というテーマがあります。今年は「自分たちの子ども世代に」と具体的な対象を挙げたことで、皆さん自身の問題として、内容の深いオリジナリティあふれる論文が多く楽しめました。私にとっても新しい斬新な発想、知らなかった科学的知見を得る良い機会になっています。私は今回、取材でレバノンに滞在している間に応募論文を読みました。海外という環境で目を通したことで、皆さんの強い想いがとりわけ私の心に響きました。

かつて未来のために作った仕組みを再確認

「NRI学生小論文コンテスト」
特別審査委員
ノンフィクションライター
最相 葉月 さん

かつて日本には、将来のために良かれと思っていろいろな仕組み、施設がつくられました。しかし今回のコンテストで、そこに問題が生じていると若い世代から指摘されました。この国の成長を支えてきたものが危険なものに変わりつつあります。それらを美しく壊す、あるいはより良く再生させるにはどうすればよいのでしょう。「NRI学生小論文コンテスト」の審査に参加することは、その時代の若者たちが持つ多様な問題意識を知る機会になっています。